

高校生における移行対象～継続と消失の違い～

家庭科班:小坂 文乃

Abstract

Transitional Objects are non-living objects which are essential for children. Such as security blankets. This study examined how common Transitional Objects are among high school students and the reasons for keeping or disposing of them. About 40% of them had their Transitional Objects. In addition, I found some similarities among students who still keep them. The reasons for continued ownership seems to be personal attachment and their family's acceptance of them.

要約

移行対象とは幼児が肌身放さず持ち歩くもので、ないとひどく不安になってしまう毛布、人形などの無生物のことである。本研究は移行対象が高校生においてどのように現れているのかを調査し、継続する場合と消失する場合の違いの検討を目指したものである。結果として移行対象を経験した人は約4割であった。また現在移行対象を持つ人には共通することと個人差があることがわかった。移行対象が継続する要因は移行対象に愛着があり、家族からの理解を得られていることであると考えられる。

1. はじめに

移行対象とはウィニコットによって「幼児が肌身離さず持ち歩くものでそれがないとひどく不安になってしまう毛布、人形などの無生物」と定義されたものである。具体例としてはライナスの毛布がよく用いられる。本研究を始めたきっかけは筆者(小坂)自身が幼少期から移行対象と思われるファスナーを持っており、高校生の現在まで継続していることだ。また移行対象に関して調べても研究者や保護者視点の研究、サイトが多く、本人視点の気持ちや内情に触れているものが少なかったこともあげられる。本研究において「移行対象」は「高校生が習慣的にそれを持つ、または触れたときに安心したり、落ち着けるもの(無生物)」と定義している。

- ・記憶はないけれど幼稚園より以前からある。
- ・枕のチャック-お座布団カバーのチャック-枕のチャック-布団のチャック
- ・ないと不安 例えると体の中に二本の張った糸がモヤモヤと揺れる。
- ・あると安心 触っていると落ち着く。
- ・ないとわかっていると耐えられる。もやもやししながらテストとかはないなあと考えるまもなく終わってしまう。
- ・樹脂の細めのチャックが好き。
- ・樹脂でも太い、膨れているとじっくりこない。
- ・金属のものは嫌い、痛い。
- ・気にしていると専属的になる。代わりもあるけれど専属のものがある前提。
- ・触っていると眠くなるときもある。
- ・触り方はいちいち意識していないけれど観察するとなにか条件があるのかも
- ・基本的に常に持っている。
- ・洗濯、他人に触られるのを拒絶するほどではない。
- ・どちらかというときとさわって相手が嫌じゃないかなと思う。

筆者(小坂)が移行対象に関して振り返ったものより抜粋

2. 研究手法

高津高校の1,2年生を対象にアンケートと座談会を行った。

《①アンケート》

グーグルフォームで幼少期と現在の移行対象の i 出現有無、ii 種類、iii 必要である時間、iv どの程度必要かを調査した。

《②座談会》

アンケートで座談会の参加を了承してくれた18名を個人またはグループで集め、進行を円滑にするためのトピックアンケートの回答の後、30分程度移行対象に関して更に詳しく話を聞いた。

トピックアンケートの内容

()年()組 名前

座談会開始前に以下の質問に回答をお願いします。

覚えていることは具体的に書いていただけるとありがたいです。

覚えていないこと、書きたくないことは無記入で構いません。

ここにだけ書いていただいて、話には出さなくても構いません。

1. 移行対象を得たきっかけを教えてください。例:○○に買ってもらった 気づいたら
 2. 移行対象をどのように触りたいですか。例:抱きしめたい 折りたたんで
 3. 移行対象への印象を教えてください。例:かわいい 優しい 宝物
 4. 移行対象に触っていると心情は変化しますか。またどのように変化しますか。
 5. 他人に触られる、洗濯されることに抵抗がありますか はい いいえ
 6. 移行対象をなくしてしまったときどのような感情・行動になると思いますか。
例:しんどくなる 仕方がないと諦める 全力で探す 身近な人に相談する
 7. 移行対象という存在が必要なくなる日を想像したことがありますか。
またどのようになくなると思いますか。
- ご協力ありがとうございます。

3. 結果

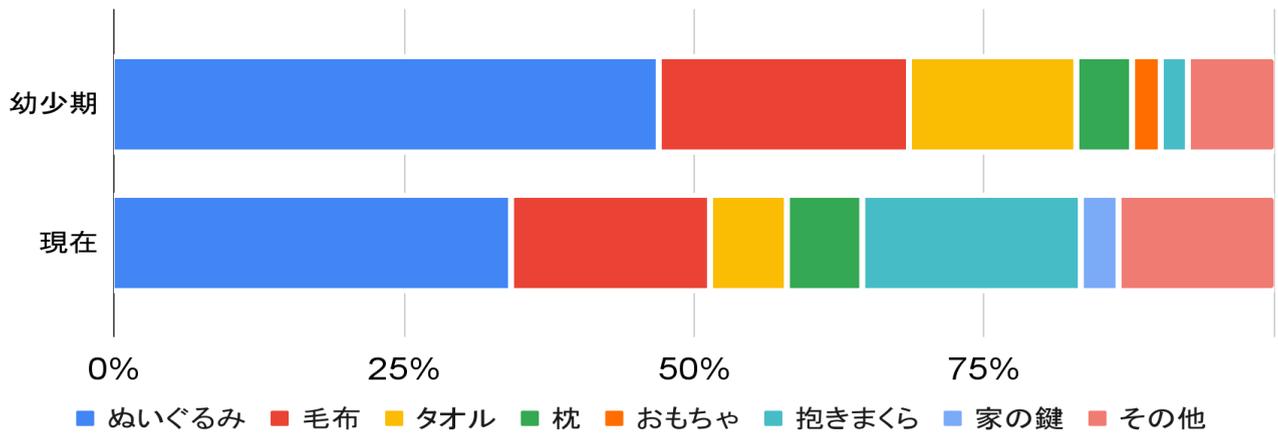
《①アンケート》回答数454名

i 出現有無

移行対象を経験した人は182名(40%)。出現した時期で分類すると現在のみあると答えたのは57名、幼少期のみあったと答えたのは61名、幼少期から現在まで継続していると答えたのは64名であった。

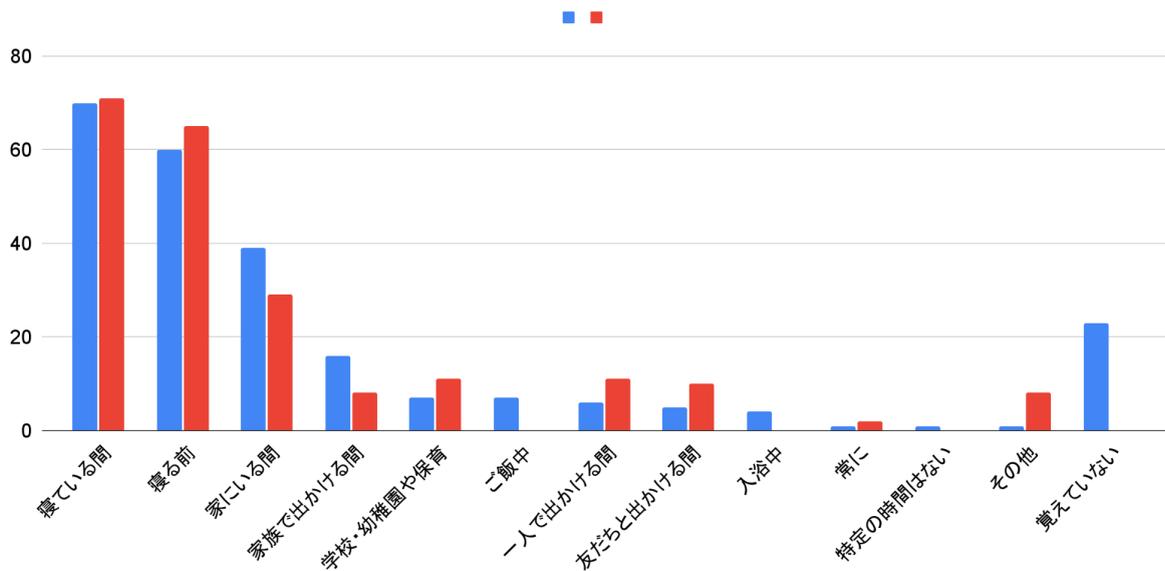
以下の資料は幼少期の出現、現在の出現で分類している。

ii 種類

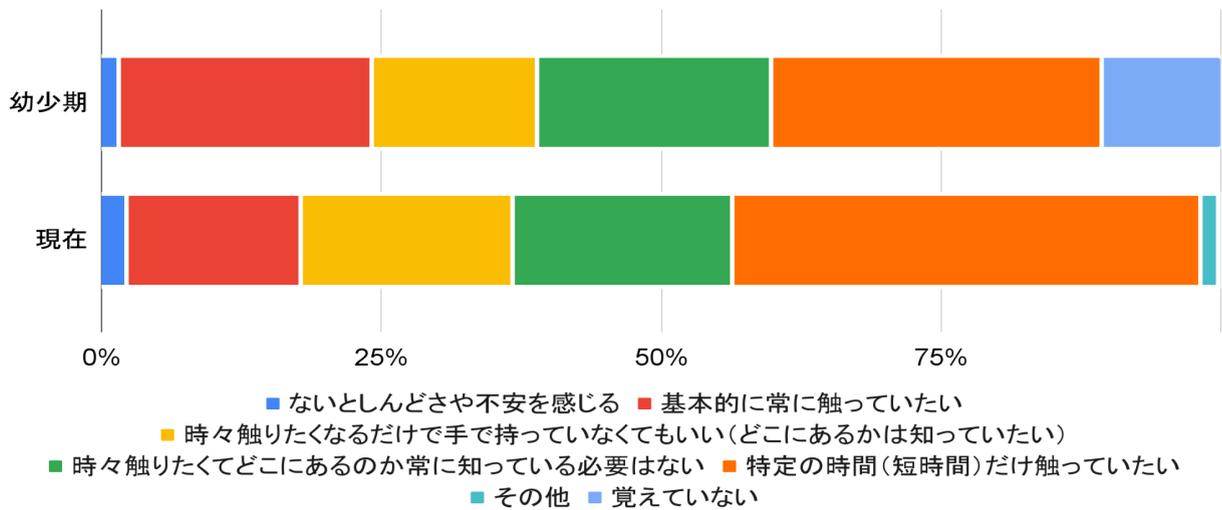


幼少期の種類		現在の種類	
ぬいぐるみ	59	ぬいぐるみ	42
毛布	27	抱きまくら	23
タオル	18	毛布	21
枕	6	タオル	8
おもちゃ	3	枕	8
抱きまくら	3	家の鍵	4
ガーゼのタオルケット	1	ガーゼのタオルケット	1
クッション	1	ハンガー	1
どっかで拾った石	1	布団	1
ビー玉	1	布地	1
黄色いボール	1	帽子	1
布団	1	ビーズクッション	1
布地	1	アルミホイル	1
服のタグ	1	おまもり	1
覚えていない	1	めがね	1
		ギター	1
		ゲームのコントローラー	1
		肩掛けカバン	1
		消毒液	1
		デジタルウォッチ	1
		ネックレス	1
		ファスナー	1

iii 必要であるとき(青:幼少期 赤:現在)



iv どの程度必要か



《②座談会》

トピックアンケートの結果と座談会での話から移行対象を持つ人に共通することと異なることが見られた。

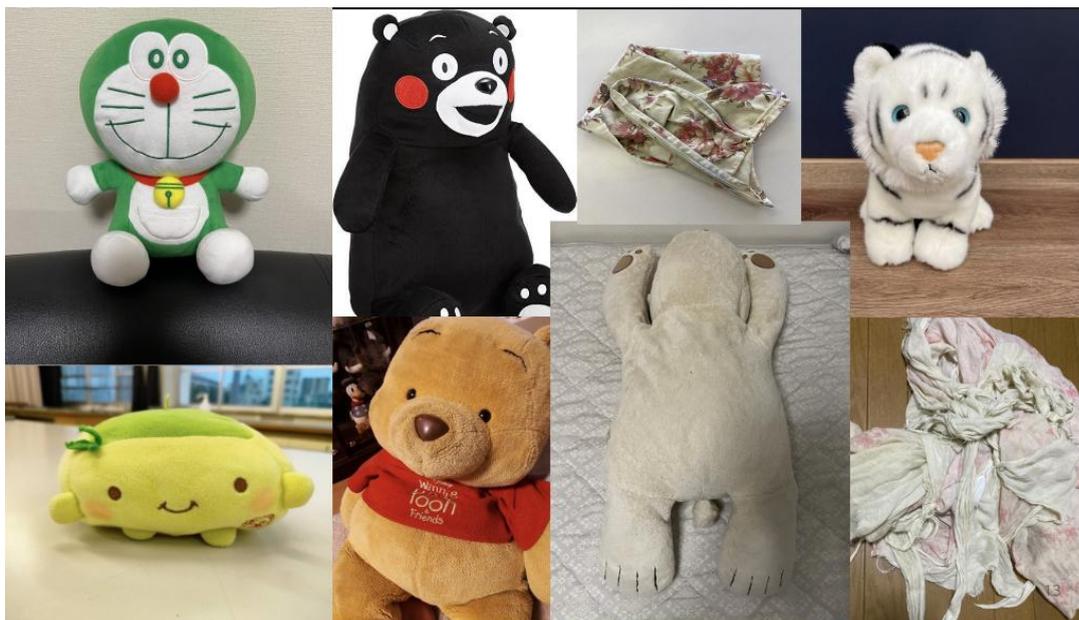
i 共通すること

- 触ったり、抱きしめたりしたい特別な存在である。
- 家族からの理解がある。
- なくなってしまうたら必死に探す。
- 今後も移行対象が無くならないと思っている。

ii 個人差があること

- 移行対象に当てはまるものが1つだけか、複数あるか。
- 移行対象に世代交代があるか。
- 洗濯したり、他人に触られるのに抵抗があるか。

座談会に参加してくださった方の移行対象の画像



【事例1】ファスナー(筆者)

幼少期から現在

生まれたときから(気づいたら)/家にあつた枕カバー、布団カバー、座布団カバー/数年に一度世代交代がある/授業中にもひざ掛けのごとくかけている/生命を感じずにものであると思う/ないと心もやもやする/捨ててしまったことを後悔/触られるのも洗濯も大丈夫/なくなしたら慌てて、探し回る/布とファスナーが日々ぼろぼろになっているのが辛いと感じる

【事例2】ぬいぐるみ

幼少期から現在

きっかけはわからない/誰かが買ってくれた人形/25cmぐらいなど色々な種類がある/小さいときはもっとたくさんあつた/以前は持ち歩いていた/今は家の中で手を握ったり、お尻をぎゅってしたりする/別次元のかわいさ/推しを見ている感じ/ないからと言って不安にはならない/アニメ、映画よりもグッズ(触れるもの)がいい/小さいときは寝かしつけをしていた/触られるのは人による/家族なら触られてもいい/洗濯は大丈夫/置くときに菌とかが気になる/なくなったら焦る→自分に腹が立つ→冷静に探す/ずっと無くならな

いと思う/家族は理解してくれてるし、ぬいぐるみをくれる

【事例3】アルミホイルの人形

小学生から現在

自分の手で作ったもの/何百個もある/持っていたら壊れてしまうから持ち歩いていない /小学4年生から毎日遊んでいて習慣化した/もろくて壊れやすいので壊れないように触りたい箱に入れているのでなくすことはないけど引っ越すとき、断捨離のときにはなくしてしまうかもしれない/新しく作るし、ずっと作り続けていると思う

【事例4】ぬいぐるみ

幼少期から現在

生まれたお祝いに母から買ってもらったふわふわのしろくまのぬいぐるみ/80cm(上半身よりちょっと大きい)ぐらい/赤ちゃんと同じぐらいの大きさ/抱きしめたい/かわいい/落ち着いてよく眠れる/お世話はしない/なくなったら全力で探す/小学生の頃で区切りがついた気がする/親に止められない/移行対象はなくならないと思う

【事例5】枕

中学生から

引っ越しの際、入学のときに購入したものの/胴体に触れるように触る/リラックスするもの/温かい/よく寝れる
他人に触られる、洗濯には抵抗がある/なくなったら2日ぐらい落ち込んで代替品を探す/移行対象はなくならないと思う

【事例6】ぬいぐるみ

幼少期から現在

0歳ごろに両親が買ってくれた/ぬいぐるみと一緒にすごしていた/40cmぐらい/触っていたい/抱きしめたい/かわいい家族/触っていると落ち着く/触られるのは家族はいいけど友達に嫌/洗濯はしていないけどファブリーズ/なくなったら探しに探しまくる/破れても治す/風化する危険性は感じる/自分が死んだときに一緒に燃やしてもらおう計画/保育園生の頃に着飾ってみたり、おままごとの相手にしていたが、小学生の頃になくなった

【事例7】ぬいぐるみ

中学生から現在

小6の誕生日に友だちからもらった/握りしめたり、一緒において寝る/かわいい/落ち着ける/洗濯もする/最近もらったので家を見つかるまで探す/親も知っているから無くならない/いらなくなることはなくて、ずっといてほしい

【事例8】ぬいぐるみ

小学生から現在

小4ぐらいにだきしめたくて、一目惚れして買ってもらった/頭を撫でたい/近づきたい/抱きしめたい/かわいい/癒やし系/ないと眠れないとかはない/落ち着く/周りが触ることに気にしていないかが気になってしまう/洗濯しているかはわからない/してもいい
なくなったら家族に聞いて家を探しに行く/続くと思うけど、あたり前は続かないからなくなってしまうかもしれない

【事例9】ガーゼのタオルケット

ぬいぐるみ

幼少期から現在

小2の頃の誕生日プレゼントとして買った

もらった/ぬいぐるみは40cm/抱きしめたい/タオルケットは幼稚園の頃から体にかけている/友達兼抱きまくら/気づいたら毎晩抱きしめる
/なくて支障はないけど心が落ち着く/清潔に保ってくれるなら触ってもいい/なくしたらショック/親がすてたら怒ると思う/移行対象は無くならないと思う

【事例10】毛布・ぬいぐるみ

幼少期から現在

毛布は体にかける/ぬいぐるみは抱きしめる/かわいい/家族なら触られても大丈夫/なくなったら全力で探す/お世話をしてきた(ご飯を食べさせる、寝かしつける、家族旅行に連れて行っていったなど)

【事例11】毛布

幼少期から現在

生まれたときの記念/さわり心地のいいところを指で撫でる/人ではないが、別格の扱い/親友2:宝物8/触りたいときになると落ち着かない、触ると安心感がある/友達になら触られても大丈夫/なくなったら全力で探すし、そこそこパニックになる/3日ぐらい落ち込んで、立ち直って2代目は探さないと思う

【事例12】毛布

幼少期から現在

気づいたときから/唇を当てるのが好き/宝物/落ち着く/今使っているのは他に育成中のもの、引退したものなどがある/裂けてしまったものもある

【事例13】毛布

幼少期から現在

気づいたときから/鼻の下までかぶりたいたい/精神安定剤/なくなったら少し悲しくなっていて、次の探すかもしれない/洗濯、触られることに抵抗はある

【事例14】石

幼少期のみ

拾ったもの/握っておきたい/落ち着き、安心できた/無いと不安になって、探す/存在を忘れて必要なくなった(気づいた

ら必要なくなっていた)

【事例15】タオル(汗拭き)

中学生から現在

家にあったもの/握りたい/なくなったら
全力で探す/使うこと(部活など)がなく
なるまでは無くならない

【事例16】ぬいぐるみ

小学生から現在

小学二年生のときに買った寝具のセット
/寝るときにあってほしい/落ち着ける/
なくなったら全力で探す

【事例17】ぬいぐるみ型の筆箱

高校生から現在

丁寧に扱いたい/かわいい/洗濯と触ら
れることに抵抗はない/期間が短いので
なくなったら少し悲しくなる

【事例18】抱きまくら

幼少期から現在

寝る前ないと不安に感じる/祖母から
もらった/抱きしめたい/かわいくてあると
落ち着けるもの/洗濯と触られることに抵
抗はない/なくなったら全力で探す/移
行対象はなくならないと思う

4. 考察

①アンケートの結果から ii 種類はぬいぐるみ、毛布、タオルが多く見られた。先行研究と同様に柔らかいものがより好まれていると考えられる。一方で、石、ビー玉、ファスナーなど少数派ではあるが硬いものも含まれていた。移行対象となるものが柔らかいものに限られないと分かった。また、抱きまくらの割合が幼少期から現在にかけて増加しており、幼少期には身の回りになかった抱きまくらが幼少期以降に移行対象になったことを表していると考えられる。iii 必要なときは幼少期、現在ともに寝ている間、寝る前、家にいる間の回答が多かった。この時間により安心が必要であることが分かる。iv どの程度必要かは割合の変化は見られなかった。原因としては高校生に幼少期のことを振り返った回答を求めたからで、幼少期の実態を調査すれば異なった結果が現れていたのではないかと考えられる。

②座談会の結果から移行対象を持つ人に共通することと異なることが見られた。また現在まで移行対象が継続している人は移行対象を消失させたいという意思を持つ人がいなかったため、高校生まで移行対象が継続すると消失しにくくなるのではないかと考えられる。

5. 結論

移行対象を経験した人は約4割であり、先行研究と同様のものが種類として多くあらわれていた。移行対象が継続する要因は移行対象に強い愛着があり、家族からの理解を得られていることである。消失の多くは幼少期に発生し、高校生では記憶がないために調査が困難であった。

6. 参考文献

井原成男.ウニコットと移行対象の発達心理学.福村出版.2009

王怡今.青年期以降の移行対象—アニミズム的思考と対人様式との関連から—.臨床心理学研究東京国際大学大学院臨床心理学研究科第14号.2016

富田昌平.乳幼児期の移行対象と指しゃぶりに関する調査研究.中国学園紀要.2007